2/25 赤旗

明日をあきらめないで

上民青同盟大田地区委員会のフードバンク・生活相談会＝12日、東京都大田区
左フードバンクに提供した大塚さんの弁当＝12日、東京都大田区　右大塚さん

東京　居酒屋店主が食料支援に弁当

東京都大田区にある昨年3月にオープンした居酒屋「おおつか」店主・大塚雄太さん（39）は、日本民主青年同盟が行ったフードバンクに手作り弁当約40食を用意しました。その思いとは―。

（小酒井自由）

弁当は、12日にJR蒲田駅前で行われた民青同盟大田地区委員会のフードバンクに提供されました。ブリと鶏肉の照り煮、ご飯が入った温かい弁当。「おいしい」と舌鼓をうつ若者の姿がありました。ブリは、「コロナで売り上げが9割減ったなじみの魚屋から仕入れました」と大塚さん。魚屋の応援も兼ねました。

■

大塚さんの支援のきっかけは―。

コロナ禍が始まってすでに1年余り。独立前に11年間働いていた飲食店は昨年末に閉店し、従業員約20人の雇用が奪われ、いまだに次のバイトが見つからない大学生もいることを知りました。同区内で生活困窮者が増えている状況も区役所から聞きました。

「おおつか」で、ボランティア活動や労働運動に携わる常連客が、飲みながら語る活動話に心を動かされ「何かしたい」と思うようになりました。そんな時に常連客からフードバンクを紹介され今回の支援につながりました。

「弁当を食べて『よし頑張ろう』と前向きになってくれたらうれしい。コロナ禍で苦しいかもしれないけど、『今を、明日を諦めないで』とメッセージを込めました。今後も、支援活動をしたい」と心境を語ります。

■

大塚さんもコロナの影響を受ける一人です。店をオープンして以降、本来の営業時間で店が開いたためしがありません。行政からの支援は都の営業時間短縮の協力金のみです。

それでも、「開店以来、来店客がゼロの日が無いことが誇り。時短営業でも来てくれるのが幸せです」と大塚さん。ふらっと立ち寄れば、全国の地酒が楽しめ、常連の一人は「仕事帰りのご褒美。酒に合うつまみが楽しめる」と言います。

夕方、開店時間を過ぎて間もなくのこと。ひとり、またひとりと客が訪れていました。